

NPO法人

第43号 秋

# 芦安ファンクラブ通信

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ

事務局 南アルプス市芦安芦倉1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2533

URL=<http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/>

E-mail=[afc3193@nus.ne.jp](mailto:afc3193@nus.ne.jp)



## 第二十八回秋の登山教室 「風の早川尾根」

家村 林

十月一日

夕刻の駒仙小屋、恒例の座学、花輪さんの竹澤長衛さんの人となり、長衛さんなくして今の南アルプス北部の発展はなかったよう。つづいて芦安山岳館館長の塩沢さんの北沢河川争奪の講義興味深く聴講いたしました。仙水谷の地形、地層。尾根上にある何々の頭はあたまと読むこと、峠の有り様等々ご高見を受け賜る。北沢長衛小屋が十月十日で営業を閉じ新たに生まれ変わること、小屋の変遷を目的の当りにし考えひとしを。山の頂を目指して大学の山岳部、地元俊英たちの先陣争奪、初登頂・初登攀はクライマーにとって勇気ある勲章なのだろう、今も昔も人間の業か・・・？

すばらな小生でございますがそれなりにちゃんとお話を伺っていたのであります。

そろそろ安着、安全を願って御神酒をいただかねばならぬ気配を東大和市より同行の野上夫婦より感ずる。もともと嫌いな方ではない小生、石川さんを誘って小屋のベンチでささやかな親睦会、女性群が加わり夕食までの楽しいひとときを過ごす。山小屋のスタッフの心尽くしの夕食、美味しゅうございました。丑三つ時小用に、満天の星、明日の好天を願う。

早朝、風は無いように思えたが高空に薄い雲が流れていた。石川リーダーの先導で総勢二十一一人、いよいよ早川尾根へ。先ずは仙水峠をめざす。仙水小屋を過ぎた辺りから風を感じる。今回の尾根歩きのロマンは眺望のほかに、もしかしてこの風、風の香りかもと想った。

尾根を歩いて五十数年、自動車に乗れず、自転車にも乗れない小生にとって「歩く」ということは生活そのものである、大げさに言わしていただく存在の証なのであります。早川尾根は、その足場と時空と風とそして生きとし生ける草木、虫や石にも、生命の場の首を感じさせてくれる気がしました。

歩程中は年のせいかポーと若い時の風に吹かれて漂ったアフガニスタン国境での幕営、ぐるり地平線上の星座。アフガニスタンからカイバ峠を越えて西パキスタンへの風転旅行のことなどを思い浮かべておりました。異文化の中で異邦人を意識した青春でした。

栗沢山、アサヨ峰、と角度を変える甲



斐駒ヶ岳の雄姿、対照的な仙丈ヶ岳、文句の言いようのないすばらしい眺望。風は依然として強く吹き、早川尾根の頭、広河原峠へと歩を進めます。尾根歩きのロマンにふれた結構な山行でした。  
七十歳を超えられた方々と小生のような六十歳後半の世代で三分の一ほどを占めていたように思われますが、日頃の鍛錬と申すのでしょうか、気構えでしょうか、見習うべきところ多々ありました。それぞれに尾根歩きがあり、各々の感慨と心地よい疲労を感じながらの終了式でした。  
女房と二人合わせて百五十才まで北岳へと思っっているのですが・・・。  
早川尾根へ、そして同行の皆様へ感謝いたします。ありがとうございました。

## 秋の東北の山を訪ねて

井口 功

何年か前から白神の山々を訪ねて廻りたいと思っていたが都合がつかず今年も秋になってしまった。どうか九月の三十日から十月六日の間に行けそうで、そこを逃すとまた暫らく七日間は取れそうもないので、天気を気にせず行こうと決めて計画を進めた。

先ず、行きと帰りに一日割り当て、中の五日で五つの山に登ることにして、山の選定をし、白神山地を中心に、帰りに登る山を繋げて山梨に近づいてくるように計画した。

九月二十九日の二十二時四十五分過ぎに高根を出発、一四一号線を佐久まで走り、佐久南インターから高速道路を、上信越道→関越道→北関東道→東北道→秋田道と走り、一〇一号で目的の八森岩館の旅館には三十日の午後に着く予定で、途中で仮眠や休憩を取りながら無理のない計画で実施した。能代南インターには十一時に着いた。距離は七百七十kmであった。能代の街で昼食を済ませ、二つ森に登ろうと登山口迄行ったのだが、ガスが濃く10m位しか視界が利かず、雨も降っていたので登山は中止して宿に向かった。宿は海に近く魚や貝など海の幸が豊富な料理に満足して一日が終わ

った。

十月一日 朝御飯をおにぎり弁当にしてもらい昨夜の内に頂いて置いたので五時三十分に出発した。海沿いの国道を走り青森県に入り、日本海の荒波に見とれて何時しか白神岳の登山口への曲がり角を過ぎてしまい、引き返さなければならなかった。登山口の駐車場には六時五分に着いた。二台停まっているだけで土曜日の白神岳にしては静かだと思った。朝食を済ませ歩き出したが天気は悪く今にも降り出しそうであった。二俣、大マテ山分岐と過ぎ、途中で下山してくる二人とすれ違った。その頃から雨混じりになった。避難小屋の前で単独の男性と会い、白神岳の頂上には十一時に着い



2011/10/01

た。ガスのため何も見えないので(山頂から東に広がる広大なブナの樹海を見たかった)すぐに避難小屋に引き返した。扉を開けっぱなし中で昼飯を食べた。下山に掛かり十一人の登山者とすれ違った。

世界遺産、白神山地一番西のシンボル「白神岳」、十月の土曜日、天気が悪いとはいえ、私達夫婦を含めこの日の登山者が十六名、とても静かな山であった。

十月二日 連泊した宿を昨日と同じ五時三十分に出発した。今日の目指す山は「藤里駒ヶ岳」で登山口まで八十五km程離れていて、途中からの林道は狭くくねっていたが他の車に一台も会わずに登山口に、七時二十分に着いた。ここは白神山地の中央の山、そして全国に十八座有る駒ヶ岳の一座という事で登ろうと思った。歩き出し、二俣を右にルートをとる。

急登に差しかかる頃に雨が降りだし、苔むした大きな石の連続した沢状のところを登り、

尾根のルートと合流、この頃から雷鳴が轟き出した。まだ林の中なので心配しなかったが、頂上近くなって林が切れ瘠せ尾根になり、剥き出しになってしまい、大急ぎで山頂に登った。写真を一枚撮っただけで二分と留まらずに走るように林まで下った。尾根ルートを、雷鳴を聞きながら下っていると、



2011/10/03

突然ザーツという大きな音が聞こえてきて、沢の音にしてはおかしい音だなと思っっているうちにすごい勢いで雹が降ってきた。体にバシバシと氷の粒があたり痛かった。激しい雹の降る中を駐車場には十一時に着いた。

今日は山で一人も登山者に会わず、藤里駒ヶ岳を夫婦二人占めして登った訳だ。

下山後、藤里町の白神山地世界遺産センターに寄り資料など手に入れ、ちようど近くで行われていた地域産業祭りなどを見て、宿に早めに着き、温泉に入ってくつろいだ。

十月三日 宿を五時三十分に出発、

本日の目的地「田代岳」を目指した。ここは白神山地の東にあり、山頂近くに有る湿原が魅力の山だ。宿からは六十五km程離れていて、登山口には七時二十五分に着いた。準備をしていると宮城ナンバーの車が一台停まった。ここより手前の沢ノ分岐に止まっていた車で、登山口を間違えたようだ。単独の登山者で、我々より先に出発して行った。雨具のズボンをはいて出発、案の定ブッシュが濡れていてズボンはすぐにびしょ濡れになってしまった。九時頃雨が降りだし、雨具を着たが、白神山地に来てから四日連続して雨に降られた訳だ。八合目を過ぎる頃より雪になり、九合目の湿原は草紅葉が真っ白になっていて、五センチもの積雪が長い木道を歩き辛くしていた。頂上には九時四十分に着いたが、風雪が強く、とても寒かった。頂上には立派な神社があり、中に入り休ませて頂き、一息ついた。ゆつくり休み一気に駐車場まで下りた。今日の登山者は我々を含み三人だった。

今晚の宿泊地、大滝温泉までは二十五kmと近かった。宿には早く着いたが、快く迎えてくれて濡れ物を乾かしたりした。大きな温泉に一人で入り、四日間の疲れを癒す事が出来た。

白神山地で会った登山者は、十五人と少なく、悪天候の連続の四日間であ

った。

十月四日 宿を五時三十分に出発、連日この時間に出る様になってしまった。本日は「七時雨山」を目指し、十和田インターから東北道を安代インターまで走った。この山は岩崎さんの「新日本百名山」に選ばれていたことを登山口の駐車場の看板を見て知った。七時雨山は、独立峰のために一日に七回も天気が変わるのでついた名前のようなだ。駐車場から七時雨山の頂上が二つに分かれているのが良く見えて、天気が快復してくるような感じがして気分が良かった。牧場の柵をくぐり抜け牧草地の中、牛の糞を避けながら上を目指した。上部の柵を抜けてから普通の登山道になった。林の中、気持ちの良い道が続いていた。小ピークをすぎ、鞍部から北峰に登った。すぐ隣に少し高い南峰が見えていた。一旦鞍部まで下り、登り返したのであるがブッシュが被っていて下半身がびしょ濡れになってしまった。頂上には九時十分に着いた。近くの岩手山が新雪を被り素晴らしい。ご夫婦とすれ違い、駐車場には、十一時に着いた。その頃から雨が降り出した。

一般道を走り、盛岡近くの石川啄木記念館を見学、宿泊地の「ユートランド姫神」に十四時四十五分に着きチェックインした。ここが今回初めての公

共の宿で、新しくて、古いガイドブックには載っていない。明日の「姫神山」

登山には最適な場所に建った施設だ。夕食の時に山口から来ていた夫婦と話したが、今日は岩手山に登頂、明日は秋田駒ヶ岳に向かうと言っていた。

十月五日 五時三十分に出発、途中でコンビニにより食料を調達し、登山口には、六時八分に着いた。姫神山は盛岡市の北にあり、ピラミット状に聳えるきれいな形の山で、岩手山を男神、姫神山と早池峰山を女神にたとえた伝説の山だ。まず松林の中に続く路を登り、階段が続く急登を登ると八合目になり、露岩の点在する所を登り、八時三十分山頂に着いた。ここまで三人の登山者とすれ違ったが、先に駐車していた二台の車の方々と思われた。頂上は風が冷たかったが岩手山が昨日に増して素晴らしい姿を見せていた。下山途中ですれ違った地元の方に、南部鉄瓶を購入するのに分かり易い場所を聞いて、下山後行ってみることにした。そこは「盛岡手づくり村」というところで盛岡インターの近くにあった。鉄瓶はピンからキリまでいろいろあり、適当のものを探すのに迷った。

盛岡インターから佐久南ICまで高速を走り、一四一号で高根には、六日の二時に着いた。

総走行距離 一九六三km 宿五泊

行動時間の短い山ばかり五山、秋の東北の旅でした。



大きなツナギの木のたもとで

## 道作りに参加して

針葉樹会 宮武幸久

夜叉神峠西口登山道が見事に復元されました。NPO法人 芦安ファンクラブを始め参加された皆様「お疲れ様」でした。

優れた指導者と手慣れた連中が集まれば、登山道の整備ということも予定通りにしかも嬉々として楽しみながら完成させることが出来るんだと実感しています。



会から五名が参加しましたが、それは数年前塩沢館長かのご尽力により芦安山岳館に「針葉樹会蔵書コーナー」を設

けて頂き、そのお礼をと考えていた時に今回の企画に恵まれたからでした。

道づくりには全くのシロウトの私に何が出来るんだろうかと不安の中、十月十二日雨が降りしきる朝始まりました。

清水リーダー以下総勢二十数名、標高一、二八〇メートルの西口からおよそ四〇〇メートル上の峠までの約一・五キロメートル、概ね四〇〇kgの資機材の運搬と道の整備です。先導隊・ポッカ隊・草刈隊に分けられ、私は他に出来そうにないのでポッカ隊に入り結局この日一往復することに。一本五キログラムの丸太を迷わず二本(三本の方も大勢いました)背負子に括り歩き出しました。標高千五百米位の第一テント場迄の直登は悪路とも重なりかなりシンドク、二本で正解という思いでした。テント下の急斜



面では階段作りが始まっていて、二回目の時はほぼ完成というところでした。かねがね山の階段は段差があり歩きづらいつらと不満を持っていましたが、なんと浅薄なことと反省するに至りました。段差は斜面の角度によって自ら決まってしまうものだからです。

標高千七百米位の第二テント場周辺は水場があり藪に覆われた危険箇所です。リーダーから「その木の木の切れ」と声が掛かり三十米位下の沢沿いの倒木を二本、道の上まで引き上げ(ど)うするんだろうかと、見てるうちに倒木は梁になり打ち込まれた杭としっかりジョイントされ、立派な橋が二ヶ所出来上がりました。杭の不揃いなのは打ち方の下手な私のせいです。

予報に反し素晴らしい天気にも恵まれた二日目は、道幅を広げる若干の手直し、重量隊による踏み固め、そして道案内の為真新しい真紅のテープを樹々に巻きつける仕上げ作業の後、正午過ぎにそれ迄峠にあった『西口通るべからず』の看板を取り外すことが出来ました。

より高みを目指した先人達があったであろう峠の役目を終え、今日峠そのものを目標にやってくる方々の為に少しはお役に立てたかなと思うと感謝の気持ちで一杯です。

追伸、芦安のアルカリ性の温泉が痛めた腰に効くこと、斉藤講師が高校の先輩であることが分かり喜びが倍増しました。



## 夜叉神峠西口登山道

小泉初恵

とにかく楽しい一日でした。なにしろ登山道整備なんて初体験、といっても私が出したのは赤いテープを立ち木に巻いただけですが。

こんど、こういうのがあるのよ、と聞いたのは秋の登山教室・早川尾根の帰り道でした。

「歩くだけでいいの。」

「え、作業できなくても？ほんとに？」  
うくん、耳寄り情報。二日目のみでOKだというので、F田さん、K藤さんにも声をかけました。いっしょに話を聞いたK田さんも参加できることになって女性四人がそろいました。雨模様のを眺めて初日の作業の進捗状況を案じつつ芦安着、前泊。



二三日朝、出発前の事故紹介では「道を踏み固める程度しかできない」（・・・申し訳ない）と念を押しました。夜叉神峠のトンネルを抜けて西口登山道に入りに到着。（・・・バス停があったんだ）  
「それぞれみんな道具を持って！」と清水さん。用意されていたのは鍬とか鉋とか、どれも重そうなのばかり。（・・・無理だわ）

「これも！」とビニールテープ二巻。さすがF田さんと二人マーケティング係を買って出ました。指図に従って、作業をしている人たちの後になり先になり、ここが登山道だと目立つように印を付けました。

そして道々の森林学習は、講師がその

場で説明されるので具体的で、質問にも答えていただけて、よい勉強ができました。（・・・すぐ忘れそう）

新しく一つ覚えたのは、斜面の繊細な細かい葉ヒメノガリヤスという名前です。カラマツ林は植林だそうで、自生のものは少ない。テンカラ天然のカラマツも今後は見分けられるでしょう。

（・・・たぶん）こういう時は「C」コードがメモがわりに役立つかも、と気付いたけれど後の祭り。K藤さんは植物図鑑を持ってくるんだと悔やむことしきりでした。

紅葉もよし。陽射しにもめぐまれました。峠近くに美味しい水の流れもある西口登山道、いつもの東口とは雰囲気も違います。雪の時期、花の時期にも歩いてみたいと思いました。



なお、針葉樹会のみなさんとお話して、せて名称の由来など伺えばよかったー。また機会があればよいのですが。



新しい自然保護官を  
紹介します。

「中村 仁」さんです。



十月より北海道・知床から南アルプス国立公園の自然保護官として芦安にやってきた中村仁です。

みなさんは知床をご存じですか？今の時期、知床では川にサケが遡上し、オオワシやオジロワシがロシアから越冬のため飛来します。二月頃になるとオホーツク海を流水が埋め尽くし、知床の豊かな生態系を支えるプランクトンを育てます。そんな知床では最近、シカがどんどんと数を増やし、森の中はシカが食べない植物が増えて生態系のバランスは崩れつつあります。

南アルプスへ異動して来て、知床でも増えすぎて問題になっているシカが、南アルプスでは高山帯のお花畑を

食べ尽くしているのには衝撃でした。ですが、地元の方やボランティアの方々も積極的に活動されている姿を見て、この土地が愛されていることを感じています。

赴任してきて数回南アルプスの山に登りましたが、山々が広くとても深い印象を受けました。また、雄大なカール地形に広がる高山植物や、白く換羽し始めているライチョウなど、とても豊かな自然に感動しました。

これからもつと山を歩き、皆さんのお話を聞きながら、シカ対策や高山植物の保護などの取り組みを進めて南アルプスの自然を守り、もつと多くの芦安ファン、南アルプスファンを増や



していくお手伝いができればと思っています。

今後ともよろしくお願いします。



「キタダケソウを護れ！」

平成二十三年度グリーンワーク  
―事業北岳吊尾根で実施。

キタダケソウの自生地である北岳南東斜面に刻まれた登山道が八本歯く吊尾根分岐まで続いている。だいぶ前からこの登山道の両脇が少しずつ侵食され始め、キタダケソウなどの希少高山植物の株が流出したり根が浮いたりしたものを何度か見かけ、その都度安定した状態になるように努めてはいた。たぶん、多くの関係者が同じような経験をもっていることだろう。

心を痛めていた関係者は数年前から此処をこれ以上崩壊させないで、しかも安全に登降出来ないものかを思案していた。ちよつと環境省のグリーンワーカー事業の導入が始まった頃だったように思う。自然発生的な崩壊は人が手をつけるべきではないが、公園利用者のコースの整備で少しでもキタダケソウなどの希少高山植物が護れるなら、環境省が動いてくれた。

施工者はNPO法人芦安ファンクラブ、現場管理は私が任されることになった。

約三百mあるこのコース(トラバース分岐く吊尾根分岐間)の百二十m間を今期平成二十三年度で行い、自然にやさしい県産材桧丸太で崩壊箇所の土留めや



登山道の土砂止めを現地状況に応じて作る。準備資材は約三十五t、荷上げは九月十二日にヘリコプターでトラバース分岐へ揚げた。念入りに現地を調査し、シミュレーション後、一度下山して体制を整えることにした。

九月二十六日入山、全て人力の作業が始まった。まず一本四m、十六kgの丸太を担いで小運搬することから始まる。ちなみに総本数は百六十本、定着させる鉄杭は五百本を越える。

アンカーになる鉄杭は約八割を地中（岩中）へ打込み、頭が出ているところへ丸太を固定する。

連続作業が続くとさすがに酸素マス



クがほしいような状況になる。あたりまえだが此処は標高三千mなのだ。しかしキーンキーンと甲高い音を立てて岩に食い込んでゆくアンカー鉄筋の音色は心地よく、若い頃に隣の岩場で打込んでいたハーケンの感触に似ていてちょっとノスタルジィな気分になる。土留丸太の中には浮石を詰め、上部の株がそれ以上洗われぬように配慮した。どこまで希少植物の立場になれるか、妥協しない作業は四日間続いた。

みぞれが降った日以外は好天が続き、悪天候の停滞もなく作業は順調に終わった。上部の百mほどは次回に残るが、仕上げれば安全にキタダケソウなどの花たちが愛でられ、しかも、痛々しい流出株も少なくなり、登降時の落石も減ることだろう。

我々が目指す、「自然にやさしい公園利用」の定着へ向けて、大きな一歩が踏み出されたことを実感した。今回の事業を導入し、現地へ何度も足を運んでくれた、宮沢前南アルプス自然保護官他環境省関係者の皆さんのご尽力に感謝すると共に、今後も先日赴任された中村南アルプス自然保護管のご活躍に期待し、我々としても協力を惜しむことなく、全力で地域の宝を護っていききたい。

NPO法人芦安ファンクラブ

事務局長 清水准一



## チロル学園親子登山

今年もチロル学園が企画した夏の親子登山が平成二十三年九月二十四日（土）栗沢山・仙水峠コースで実施され、当クラブの会員がガイドを務めました。以下は参加した子供たちの感想です。

### ―チロル学園生の感想より―

はじめてくりさわにのぼったとき犬つかいにされて、とてもあるきやすくてよかった。またくりさわにのぼるときもおねがいします！そのときはいるかわかりませんが、くるかかんがえています。またのぼれる目が見たらのぼりたいとおもいます。でも山にのぼってさいしょはこわかったです。だんだんじぶんもなれてきました。

そのときは、石ころがじゃまだつたけども私もなれてきました。こんどは先生とやしゃじんにのぼります。それで、はなしがかわるけれども、くりさわやまのすぐうしろの山も大きかったです。またおねがいします。あとすごいけしきもきれいでした。あとすごいけしきもたかかったし、いろいろなけしきもみれてうれしかったです。終。

〔S・S〕

今回の栗沢山登山では、大変おせ

わになりありがとうございました。また、登山の経験の少ない僕にとつてはとても心強く、楽しく登る支えになっていただけました。色々栗沢山の説明も事細かく、冗談も交えながらわかりやすく教えていただきました。堅苦しくなってしまうましたが本当にありがとうございました。

〔K・M〕

俺の中ではくり沢山はたいしたことはないけど、でもたのしかったです。俺は次に三千メートル級の山にのぼりたいです。まだくり沢じゃあものたりないです。いろいろとありがとうございました。

〔M・Y〕

今回の栗沢山、ご支援ありがとうございました。私達も慣れないハードな登山だったけれど、文句もたくさん言っただけ、支援していただいたおかげで無事に一日が終わりまし。その日はもうみんなぐっすり・・・長いようで短かった一日。もう何ヶ月もたつけど、新しいメンバーでの絆がためされた気がします。頂上でみる景色もみんなで見れば一つの大きな静止画。動いている空ももう思い出です。でも本当に支援者皆さんのおかげです。ありがとうございました。

ございました。

〔M・S〕

登山のときは、いろいろありがとうございました。准一さんは、いろいろオレたちのことをやってくれてありがとうございます。千野さんは、ロープでオレをおさえてくれてありがとうございます。ひでみさんは、オレがなくてしまったとき心配してくれてありがとうございました。

〔K・N〕

先日の栗沢山登山の件は、どうもありがとうございました。みなさんの協力があったからこそみんなだけがもせず下山まで行けたんだと思います。トラブルもありながらもアドバイスをしてくださり本当にありがとうございました。景色の良さも分かり、登山がもっと楽しくなりました。本当にありがとうございました。

〔H・Y〕

チロルが二千メートル級ののぼったのは今年がはじめてで、かいこまもみれてよかったです。また十月の登山よろしくおねがいします。

〔R・K〕

今回の登山ありがとうございました。

栗沢山に登るのが初めてでしたが、とてもたのしかったです。いそがしい中、しえんしてくださいましてまことにありがとうございました。

〔N・I〕

自分の足でその頂きに立つて、自分の目で見て、その頂きに伝わる大地のささやきを聞き取れた登山教室になったことでしょう。

